

本資料の使い方と構成

道路事業の環境影響評価は、

- ・「環境影響評価法」
- ・「道路事業に係る環境影響評価の項目並びに当該項目に係る調査、予測及び評価を合理的に行うための手法を選定するための指針、環境の保全のための措置に関する指針等を定める省令」
- ・「道路事業に関する環境影響評価の実施について」

等に基づいて行うこととされている。

本資料は、上記の規定に則り道路事業の環境影響評価を実施するための具体的な技術手法とその解説を、現在得られる最新の科学的知見に基づいて取りまとめたものであり、事業者が実務の上で広く活用していただくことを考えている。ただし、これらの手法等はあくまで一例であり、実際には各事業者が対象道路事業毎にこれらの手法等を参考としつつ、適切な手法等を選択することが望ましい。

次に、本資料の構成は以下のとおりである。

: 「道路事業に係る環境影響評価の項目並びに当該項目に係る調査、予測及び評価を合理的に行うための手法を選定するための指針、環境の保全のための措置に関する指針等を定める省令」の第八条別表第二の内容を示す。
なお、本資料において単に「省令」という場合はこの省令を指す。

: 「道路事業に関する環境影響評価の実施について」
で囲まれた部分 なお、本資料において「技術指針通達」という場合はこの通達を指す。

: 各評価項目の調査、予測及び評価のための具体的な技術手法を示す。
で囲まれた部分

【解説】 : の内容の詳細な解説。 の内容の全般的な解説や、
下線を施した部分に関する根拠、データ、留意事項等を含んだ詳細な解説を記した。

なお、本資料における式番号は、 内では省令の式番号と一致させている。また、 内では(●. ○)、【解説】では(解説●. ○)と表記し、各々連番としている(●は章を示す)。

今回改定の概要及び最新版について

1. 今回改定の概要

1) 改定理由

自動車の走行に係る騒音に関して、次の知見を得ることができたため。

- ・日本音響学会道路交通騒音予測モデル“ ASJ RTN-Model 2003 ”（平成16年4月）

2) 主な改定内容

- ・予測の基本的な手法を“ ASJ RTN-Model 2003 ”としたこと。

3) 実務での主な変更事項

- ①排水性舗装における騒音低減効果の経年変化について、車種別/道路の種類別に補正量を与えたこと。
- ②二層式排水性舗装について、新たに記述したこと。
- ③先端分岐型遮音壁等（日本道路公団採用）について、標準予測手法で予測可能としたこと。
- ④予測の重点化手法に関して、最新の知見を取り入れたこと。

2. 改定経緯及び最新版

技術手法（四分冊）の改定経緯及び最新版については、次の表の通りである。

表 一 技術手法（四分冊）の改定経緯及び最新版

改定時期	技術手法 （その1）	技術手法 （その2）	技術手法 （その3）	技術手法 （その4）
平成12年10月	初 版	初 版	初 版	初 版
平成15年 9月	（改定なし）	『4.2 建設機械の稼動に係る騒音』を全面改定 詳細な内容（データ等）は、『独立行政法人土木研究所資料第3901号（平成15年9月）』参照	（改定なし）	（改定なし）
平成16年 4月 （最新の改定）	（改定なし）	『4.1 自動車の走行に係る騒音』等を部分改定	（改定なし）	（改定なし）
最 新 版	平成12年10月	平成16年 4月	平成12年10月	平成12年10月

